学習の３段階理論の「理解」と「定着」の進め方

開倫塾
塾長　林　明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂きありがとうございます。

学習には３段階の理論があり、「理解」「定着」「応用」といいます。「理解」とは、「うん、なるほど」と腑（ふ）に落ちることです。これは大事なことですので、学校や塾で勉強する時は、「うん、なるほど」と腑に落ちることを心掛けてほしいと思います。そのためには、先生のお話を真剣に聴き、必要なことはメモを取ることです。また、「理解」を妨げるものは、おしゃべり、居眠り、忘れ物、教室の中を徘徊することなどです。これらの行為をしていたのでは先生の話を聴く状態ではありませんから、理解ができません。要するに理解をするうえで大切なことは、先生の話を真剣に聴くことです。

悲しいことに、人間は１度「理解」したことをあっという間に忘れてしまいます。そこで次の段階は、「定着」させることが大切になります。「定着」とは、１度「理解」したことを何も見ないでスラスラ口をついて言えること、楷書で書けること、簡単な問題であれば問題を見た瞬間に答えが出せること、これらが身に付いていることだと思います。学校の授業では、先生が「これを覚えなさい」と時間を取ってくれることはほとんどありません。先生は、生徒の皆さんに「うん、なるほど」と「理解」してもらうことに精一杯で、「定着」のための時間を取ることができないのです。ですから、「定着」のための時間は自分で取るしかありません。

では、どのくらい必要かといえば、個々人の希望する目標によって違ってきます。医師や弁護士、公認会計士、エンジニアなど難しい資格を必要とする職業に就きたい人、難関といわれる大学や高校に合格したい人は、「定着」のための時間をたくさん取らなければなりません。寝ている以外の時間はすべて、「定着」のため、勉強のために費やすというくらいの意気込みが必要です。例えば、英語は、単語がきちんと発音できるか、一つの文・一つの章がきちんと読めるか、まずは読めるようにすることです。次に、書けなければいけません。読めても書けなければ点数にはつながりませんし、社会に出てから役に立てることもできません。単語、一文、そして一章と、書く練習が必要です。社会や理科も、言葉、例えば日本国憲法の三大原理は国民主権・平和主義・基本的人権の尊重ですが、その意味がわかることは「理解」にあたり、それができたうえで書けなければいけません。そのために

は、紙に書いて覚えるなど練習あるのみです。この練習をたくさんすればするほど、１度「理解」したことが確実に身に付きますので、この「定着」のための時間をどんどん取って下さい。この「定着」の時間を妨げるものとしては、ＴＶゲーム、長電話、悩むこと、大げんかなどがあげられます。人生をどのように生きるべきかと悩むことも時には必要ですが、そうではなく、くよくよと悩む人がいます。悩んでいても勉強はできるようにはなりませんから、その時間は「定着」のための作業時間にして下さい。大げんかですが、家族とけんかをしたりすると、刺激が大きくて精神的によくありません。つまり、「定着」のための作業時間を取るためには、それを妨げるものは避けることです。これにより、「理解」「定着」「応用」の中の「定着」が進みます。「応用」については、次回にお話させて頂きます。

勉強には、３つの段階、「うん、なるほど」と「理解」する段階、それを身に付ける「定着」の段階、それを使ってテストの点が取れる・社会で役立てられる「応用」の段階があります。この３段階の理論をよく理解して、それに合った勉強の仕方をして下さい。そして、その妨げになることは排除して下さい。素晴らしい成果が期待できると思います。